

イネ科のスズメノカタビラをよく食べたとの記述がある。また、滝沢 (2012) では本種の食草としてコムギやイネ、サンカクイを挙げており、幼虫はオカボの若い茎に潜孔すると述べている。

末筆ながら、広島県のムギヒサゴトビハムシの記録についてご教示いただいた神石高原町の秋山美文と鳥取市の大生唯統、高松市の藤本博文、徳島市の脇悠太の各氏ならびに調査に同行して下さった岡山市の山地治氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 秋山美文, 1994. 広島県産甲虫の分布記録 (2). 比婆科学, (162): 63-66.
- 秋山美文, 2002. 広島県産甲虫の分布記録 (6). 比和科学博物館研究報告, (41): 85-103, 2 pls.
- 秋山美文, 2018. 広島県産甲虫の記録 (3). 広島虫の会会報, (57): 43-50.
- 秋山美文・榎本成司・中村慎吾, 2021. 庄原市立比和自然科学博物館に収蔵された新谷隆之氏採集昆虫標本・庄原市立比和自然科学博物館 標本資料報告, (21): 1-144.
- 秋山美文・木元新作, 1997. 広島県産ハムシ科分布記録. 比和科学博物館研究報告, (35): 135-146.
- 秋山美文・木元新作, 2000. 広島県産ハムシ科分布資料 (2). 比和科学博物館研究報告, (39): 91-99.
- 小阪敏和, 2004. 東広島市の甲虫類 (4). 広島虫の会会報, (43): 45-54.
- 小阪敏和, 2008. 東広島市の甲虫類 (11). 広島虫の会会報, (47): 29-34.
- 森 和夫, 1993. ムギヒサゴトビハムシの食草について. きべりはむし, 21 (2): 50.
- 初宿成彦, 2012. 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫目録 (2) ゴミムシ類, カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属, ハムシ科. 372 pp., 大阪市立自然史博物館.
- 滝澤春雄, 2012. 日本産ハムシ科生態覚書 (6). 神奈川虫報, (177): 33-51.

(末長晴輝 710-0803 倉敷市中島 108-11)

【短報】自然下におけるアトホシヒラタマメゲンゴロウの幼虫の記録

アトホシヒラタマメゲンゴロウ *Platynectes chujoi* M. Satô, 1982 は、八重山諸島 (石垣島, 西表島, 与那国島) にのみ分布する日本固有のゲンゴロウ科の種で (渡部・吉富, 2023), 河川や林道脇の染み出し水由来の細流等に生息する (中島ら, 2020). 本種の幼虫に関する自然下の知見は乏しく, 三田村ら (2017) によると 12 月に幼虫が確認されているものの, この記録は具体的なデータを伴っていない。

第一筆者の宮崎は自然下で本種の幼虫を撮影した。本種の繁殖期を推定する上で貴重な記録であるため, ここに報告する。

1 ex. (2 齢幼虫), 沖縄県竹富町上原 西表島, 25. X.

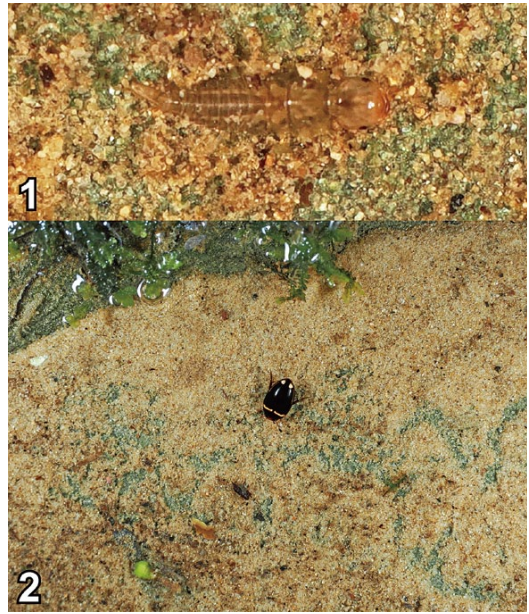


図 1-2. 1, アトホシヒラタマメゲンゴロウの 2 齢幼虫 (19 時 11 分撮影); 2, 幼虫が確認された環境と成虫。

2022, 宮崎撮影 (図 1)。

幼虫が観察されたのは、林床内を流れる透明度の高い細流の、岸付近に苔類が生育する、水深 5 cm 程度、大きさ 1 m 四方ほどの浅い淀みであった (図 2)。幼虫はアトホシヒラタマメゲンゴロウの成虫と同所で確認され、確認地点では他のゲンゴロウ科が見られなかったこと、三田村ら (2017) の生体写真と頭部の斑紋が合致したことにより本種と同定した。また、同文献に掲載された全齢期の幼虫の写真と比較し、中・後胸の幅が頭部の幅とほぼ同じであることから 2 齢幼虫と判断した。

本報告により、本種の幼虫は 10 月と 12 月に出現することが明らかとなった。西表島では 3 月初旬に交尾中の成虫や淡い色彩の未成熟個体が観察されている (森・北山, 2002)。以上のことから、繁殖期は少なくとも秋～春期にまたがると考えられ、通年繁殖をしている可能性もある。継続的な調査が求められる。

引用文献

- 三田村敏正・平澤 桂・吉井重幸, 2017. 水生昆虫 1 ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック. 176 pp. 文一総合出版, 東京.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド 日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版.
- 渡部晃平・吉富博之, 2023. ゲンゴロウ科. 日本昆虫目録編集

委員会(編)日本昆虫目録第6巻鞘翅目第1部, pp. 8-27.
権歌書房, 福岡.

(宮崎裕輔 353-0004 志木市本町5-1-23-301)
(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戌3番地
石川県ふれあい昆虫館)

【短報】長野県松本市でモンクチビルテントウを採集

モンクチビルテントウ *Platynaspis maculosa* Weise, 1910 は, 松原ら(1998)によって日本から初記録された移入種で, 現在国内では本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布している(阪本, 2021; 辻, 2023). 筆者は長野県松本市において本種を採集した. 本種は, 近隣県では群馬県甘楽町(岩田ら, 2022), 埼玉県入間市(宮崎, 2018) および寄居町(新井, 2020), 岐阜県可児市(安藤, 2020), 静岡県静岡市(石川, 2011), 愛知県豊橋市・豊川市(山崎, 2018) や名古屋市(内藤, 2021) から記録されているが, 長野県からは未記録である. また, 今回の採集地点は既往の記録地点のうち最も近い群馬県甘楽町からも直線距離で約85 km 離れており, 比較的飛び離れた新産地であると考えられることから, 以下に採集記録を報告する.

なお, 本種はもともと *Platynaspis* 属で記載され, Miyatake (1961) により *Platynaspidius* 属に移されたが, Ślipiński & Tomaszewska (2022) は *Platynaspidius* を *Platynaspis* の新参シノニムとしたため, 今回はその処置に従った.

1♂, 長野県松本市中央1丁目, 4. IX. 2022, 筆者採集, 保管.

道路脇のエゴノキの樹幹に止まっていた個体を採集した.

末筆ながら, 採集のきっかけを作ってくださいました久末遊, 勝部菜摘, 相馬純の各氏, 長野県での本種の記録の有無を確認してくださいました青井光太郎氏と橋爪拓斗氏, 文献入手に協力してくださいました大野友豪氏と田村竜土氏に御礼申し上げます.

引用文献

安藤真人, 2020. 岐阜県未記録のモンクチビルテントウの記録. 啓蟄, 38 (71): 68.
新井浩二, 2020. 埼玉県からのモンクチビルテントウ追加記録. 寄せ蛾記, (178): 17-18.
石川 均, 2011. 静岡県初記録のモンクチビルテントウ. 月刊むし, (487): 46.
岩田朋文・佐々木雅希・茶珍 護, 2022. 群馬県におけるモンクチビルテントウの初記録. 月刊むし, (622): 20-21.

松原 豊・上野輝久・佐々治寛之, 1998. 日本未記録のモンクチビルテントウ沖繩本島に産する. 月刊むし, (332): 38.

Miyatake, M., 1961. The East-Asian Coccinellid-beetles preserved in the California Academy of Sciences, tribe Platynaspidini. 愛媛大学紀要第六部. 農学, 6: 157-176.

宮崎 豊, 2018. 埼玉県でモンクチビルテントウを撮影. 月刊むし, (568): 50.

内藤通孝, 2021. 名古屋東山周辺の昆虫相 追補2. 椙山女学園大学研究論集 自然科学篇, (52): 53-68.

阪本優介, 2021. テントウムシハンドブック (第3刷). 88 pp. 文一総合出版, 東京.

Ślipiński, A & W. Tomaszewska, 2022. The genus *Crypticolus* Strohecker, 1953 - Redescription and transfer from Endomychidae to Coccinellidae (Coleoptera: Cucujoidea). Annales Zoologici, 52: 493-497.

辻 雄介, 2023. 高知県安芸市で採集されたモンクチビルテントウ. 南予生物フィールドノート, (2023): 23001. オンライン出版: <http://www.cnw.ne.jp/~tuzihaze/PDF/23001.pdf> (2023年1月7日閲覧)

山崎隆弘, 2018. モンクチビルテントウの東三河における分布について. 三河の昆虫, (65): 917-918.

(中村 涼 113-8657 文京区弥生1-1-1
東京大学農学生命科学研究科森林動物学研究室)

【短報】久米島からのアカビロウドコガネの記録

アカビロウドコガネ *Maladera castanea* (Arrow, 1913) は, 国内では北海道から大隅諸島まで生息すると考えられていたが(平沢, 2012), 小林(2022)によって国内の本種とその近縁種を再検討したところ, 沖繩諸島(沖繩本島, 瀬底島, 伊江島)に生息するタイワンアカビロウドコガネ *Maladera formosae* (Brenske, 1898) とされてきた個体群は本種であることが判明した. よって, 国内における本種の分布は北海道から沖繩諸島となった. その後, 伊平屋島からタイワンアカビロウドコガネが記録されたが(稲田, 2022), 伊平屋島産の個体群も沖繩本島などと同様にアカビロウドコガネと思われる.

筆者は, これまでに記録のない久米島にて本種を採集しているのので, ここに報告する. なお, 本報告で使用した標本は東京農業大学昆虫学研究室にて管理・保管する.

1 ex., 沖繩県久米島町比屋定, 20-21. VIII. 2022, 筆者採集(図1).

農耕地の間に残った林内から空中設置式ライトトラップにより得られた. 小林(2022)は, 本種とタイワンアカビロウドコ



図1. 久米島産アカビロウドコガネ.